

『神様が たった一度だけ この腕を動かして下さるとしたら 母の肩を たたかせてもらおう。  
風に揺れる ペンペン草の実を 見ていたら そんな日が 本当に 来るような気がした。』

( 星野 富弘 作 ・ペンペン草 )

風薫る五月、今年はお天気に恵まれた 美しい青空が広がった 明るいゴールデンウィークとなりましたが、皆様はそれぞれ お元気に 佳いお休みをお過ごしになりましたでしょうか。

先月末の 保護者会総会には お忙しい中、土曜日の 貴重な時間を 費やして頂きましたこと、ありがとうございました。1年間分の 保育園生活について、様々なことを お話したいとの思いから 毎年 盛り沢山の内容をつたない語り手が 一方的にお伝えする形となってしまうのですが 長時間 ご協力を頂きまして 本当にありがとうございました。後日 お寄せ頂きましたアンケートを含め、皆様より 心温まる ご感想やご意見等も 重ねて御礼申し上げます。大切なお子さんをお預かりする上で 保育園をご理解 頂けることは 私共にとりまして 何よりも喜びであり 大きな力です。どんな時も 子ども達を 真ん中に『人として』『子どもにとって』のまなざしを 第一に、各ご家庭と 保育園とが 想いを 分かち合いながら 二人三脚で 歩んで参りたいと願っております。人の生涯において 最も重要な乳児期を 一人ひとりの 子ども達が 個性豊かに のびのびと 心安らかに 心優しく 明るい笑顔で 時を重ね 成長していけるよう 共に 祈りつつ 精一杯 尽力致します。改めて どうぞよろしくお願い致します。

さて、冒頭の 詩は、保護者会の中でも 少しでも お話させて頂きました 星野富弘さんという 口筆画家の代表作です。星野さんは、大学を卒業され 中学校の体育教諭として赴任した直後の 4月の ある放課後、生徒達に 模範演技のつもりで見せようと 器械体操をしていた際、着地を誤ったことにより 大怪我を負い その時から 人生が一変してしまいました。誰よりも 健康を誇りにし 身体を使うことが 大好きで 教師になったのに その夢どころか 首から下の機能が 一切 不自由となり すべてを 奪われてしまったのです。生きる希望も 力も 何もかもを 失い 自暴自棄になり 心閉ざし 荒れた日々を過ごしていた 星野さんを 傍で 優しく 介護しながら 常に 励まし 支えたのは お母様でした。五体満足で 生まれた命を 社会人になるまで 大切に 育てて、親としての安堵感に 満たされた 大きな喜びが、一瞬にして 変わり果てた息子の姿を 目の当たりにした時の思いは いかばかりだっただろうと 胸が詰まります。けれども その涙や 悲しみを 一切 見せることなく どんな時も変わらず 明るく 穏やかな笑顔で 寄り添っていた お母様だったそうです。寝たきりの人生となった 星野さんは その後に 教会の牧師先生から 贈られた聖書を通して イエス・キリストに出会い、受洗、さらに人生が一変しました。ある日 大好きな花を 見ている時に 一歩も 動くことなく その与えられた場所で 精一杯 自らの命を 生きていることに 気づかされ、寝たきりになってしまった 自分の姿と重なり その瞬間 心が 激しく震え、その思いを 花に込めて なんとか 絵にしたいと 口に 筆をくわえて 描くことを お母様に 助けて貰いながら 始めたのが きっかけだったそうです。それから 何年も苦勞され 今では 星野さんが描く 花たちへの 愛がにじみ出ている 温かで 優しい 絵と 詩は 世界中の 多くの人々が 感動と希望を 与えられていて、私も その1人です。人の目には 苦難に見える 星野さんの人生は 神様の必然であったのだと しみじみと感じますが、それを受け入れるまで 傍で 息子を信じ 支え続けていた お母様の 祈りの力と 心の強さを 思われます。

この ペンペン草の詩は 私にとって 初めての 星野さんとの 出会いでしたが、お母様への 果てしない感謝が込められた 切なくて温かなメッセージに 思わず 私自身の 天国の母の愛が 想い出され 涙が 溢れてしまいました。明後日は 母の日ですね。世界中の お母さん達に その 愛に 神様の 豊かな祝福が ありますように 心から お祈りいたします。 (石田 記)

「わが子よ。・・・あなたの父と 母を 喜ばせ、あなたを 産んだ母を 楽しませよ。(箴言 23:25)」